

「介護食品」の認知率5割の壁

本会では、介護食品やUDF（ユニバーサルデザインフード）の認知度調査を隔年で行っており、調査年の今年は4月に実施しました（前回は令和4（2022）年4月）。調査対象はインターネットアンケートに参加した一般消費者で、食事介護者の有無や年代別に集計を行いました。

この結果、まず、介護食品が市販されていることを「知っている」との回答は全体で47.8%と前回の49.0%から若干減少しました。本調査は2007年から開始しましたが、この設問は3回目（2009年）より加えており、この時は34.8%でしたので、認知率が上がっていることは確実です。ちなみに、ほぼ50%（49.9%）となったのは、2018年でした。一方で、「家族に食事介護者がいる世帯」を見ると、54.2%が「知っている」と回答（前回51.7%）。「介護者がいない世帯」についても45.7%の認知率でした（同48.2%）。全体で「認知率5割の壁」を突破するのはなかなか難しいですね。もう一息。

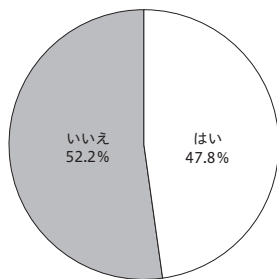
次に、「ユニバーサルデザインフードを知っている」については、全体で13.4%と前回に比較して増加しました（前回12.2%）。これは「食事介護者あり世帯」を見ると28.3%でした（前回22.4%）。

これらの結果について年代別の集計を見てみると、介護食品が市販されていることを「知っている」のは60代以上が63.0%（前回63.0%）と最も高く、順に50代51.0%（同54.0%）、40代45.5%（同50.5%）、20代40.5%（同35.0%）、30代39.0%（同42.5%）の結果でした。

「ユニバーサルデザインフード」の認知率については逆に、20代25.5%（前回17.5%）、40代13.0%（同13.0%）、30代12.5%（同14.5%）、50代9.0%（同6.5%）、60代以上7.0%（同9.5%）と若年世代の方が高い傾向にあります。

「低栄養」についての認知も訊いていますが、「よく知っている」15.3%（前回15.3%）、「名前だけ知っている」25.7%

（同25.6%）、「初めて聞いた」59.0%（同59.1%）と前回とほぼ同じ結果でした。「食事介護者あり世帯」の集計では順に27.5%（前回28.9%）、25.9%（同21.1%）、46.6%（同50.0%）でした。さすがに理解度では「食事介護者あり世帯」が高



Q. あなたは介護食品が市販されているのをご存知ですか

いですが、「低栄養」という言葉自体については一定の認知がある様子うかがえます。年代別の認知度では、「よく知っている」は20代が20.5%、「名前だけ知っている」は60代以上36.0%、「初めて聞いた」は30代が67.5%でした。

また、「UDFの4区分の正しい順番」について訊いたところ、「かまなくてよい」→「舌でつぶせる」→「歯ぐきでつぶせる」→「容易にかめる」の正しい順での回答は41.1%（前は41.3%）でした。この結果をどう見るべきか悩ましいところです。

本調査は、回答者の属性を定めていないことから、どうしても毎回結果にブレが出てしまいます。ある意味では「実力テスト」と言えるかもしれません。

どこを切っても同様の結果になるよう、本会では、今後もUDF普及活動をさらに積み重ねて参ります。

【調査概要】

- ①調査方法：インターネットアンケート
- ②調査地域・対象：全国（20歳代～60歳代以上・男女各100名）
- ③調査期間：令和6（2024）年4月

【会議、催事等の予定】

- 9月15日（日）第6回最期まで口から食べられる街づくりフォーラム全国大会
- 9月19日（木）第3回業務用WG
- 9月24日（火）第2回容器包装研究会

【UDF商品登録状況（2,185品目・7月末現在）】

	区分1	区分2	区分3	区分4	とろみ調整	拡張	合計
乾燥食品	0	14	9	7	77	9	116
冷凍食品	320	233	777	30	0	0	1,360
常温食品	251	55	236	165	2	0	709
合計	571	302	1,022	202	79	9	2,185

【会員の異動（7月）】

計96社（7月末現在）。

◎日本介護食品協議会では会員企業を募集しています。協議会とユニバーサルデザインフードについては事務局までご連絡ください。

事務局：東京都千代田区神田東松下町10-2
 翔和神田ビル3階
 TEL 03-5256-4804
 FAX 03-5256-4805
<https://www.udf.jp/>